

今後の計画策定の進め方について（予定）

第1回杉並区地域公共交通活性化協議会

令和4年3月1日
都市整備部交通施策担当

1. 新たなモビリティサービス ①考え方と概要

新たなモビリティサービスとは、IoTやAI等の新技術を活用した既存ネットワーク機能向上や新型輸送サービス、MaaS (Mobility as a Service) など、地域の移動手段の確保・地域活性化等を図ることを目的とするものである。

 : 新たなモビリティ

鉄道
約1600人乗り
時速100km/h程度



(JR中央線)

小型モビリティ
1人乗り、
時速60km/h程度



(コムス)

カーシェア
約4人乗り、
時速60km/h程度



(タイムズカー)

タクシー
約4人乗り、
時速60km/h程度



(ジャパントクシー)

コミュニティバス
約30人乗り
時速30~60km/h程度



(すぎ丸)

路線バス
約70人乗り
時速30~60km/h程度



(都営バス)

BRT
約120人乗り
時速60km/h程度



(東京BRT)

LRT
約80人乗り
時速60km/h程度



(ポートラム)
約160人乗り



(ライトライン)

電動キックボード
1人乗り、
時速15~30km/h程度



(LUUP)

デマンド交通
約4~8人乗り、
時速60km/h程度



(CTI)

シェアサイクル
1人乗り、
時速10~30km/h程度



(HELLO CYCLING)

グリーンスローモビリティ
4人乗り以上、
時速20km/h未満

4人乗り 10人乗り 16人乗り



(モビリティワークス) (eCOM-8^2とeCOM-10)

電動車椅子
1人乗り、
時速6km/h以下



(WHILL Model C)

地域の輸送資源の総動員

公共交通機関

鉄軌道 路線バス 旅客船

コミュニティバス デマンド交通 乗用タクシー

+ 自家用有償旅客運送

福祉輸送、スクールバス、病院・商業施設等の送迎サービスなど

←少ない

輸送人数(人)

多い⇒

1. 新たなモビリティサービス ②区の今年度の取組

・シェアサイクル

昨年12月に、実証実験スタート
先月2月、1事業者追加スタート

・グリーンスローモビリティ

・電動車いす

・電動キックボード

各事業者と実証実験等実施に向け協議中

速い⇒
速度(km/h)

⇒ゆっくり

⇒少ない

輸送人数(人)

多い⇒

電動キックボード
1人乗り、
時速15~30km/h程度

(LUUP)

シェアサイクル
1人乗り、
時速10~30km/h程度

(Hello Cycle)

電動車椅子
1人乗り、
時速6km/h以下

(WHILL Model C)

グリーンスローモビリティ
4人乗り以上、
時速20km/h未満
4人乗り 10人乗り 16人乗り

(モビリティワークス) (eCOM-8^2とeCOM-10)

グリーンスローモビリティと次世代電動車いすの試乗会を行います

今年度より区は、新たなモビリティサービスの導入に向け取組む一環として、今回グリーンスローモビリティと次世代電動車いすの試乗会を行います。なるべく多くの方に、「乗って」「見て」頂ければ幸いです。

一問い合わせは、都市整備部管理課交通企画担当へ

【試乗会の概要】
グリーンスローモビリティで、荻外荘公園から荻窪地域区民センターや大田黒公園を周回するコースで乗車できます。また、荻外荘公園では次世代電動車いすを試乗できます。
【実施日時】
関係者：令和4年3月25日(金)
一般：令和4年3月26日(土)
(両日とも10時~12時、13時~16時)
【実施場所】
荻外荘公園~荻窪地域区民センター~大田黒公園
【使用モビリティ】
・モビリティワークス LSV-4
・WHILL Model C2
【利用方法】
・グリーンスローモビリティ
荻外荘公園から、周辺を約10分乗車していただきます。事前予約制となります。予約方法は、3/15の区報で周知します。
・次世代電動車いす
荻外荘公園内を走行していただきます。当日整理券を配布いたします。
※雨天の場合、次世代電動車いす試乗は、荻窪地域区民センターで行います。



モビリティ試乗会 ルートマップ



2. 杉並区地域公共交通計画の策定の方向性

「みどり豊かな住まいのみやこ」に根差す持続可能な交通体系の構築

基本方針

基本方針①

誰もが移動しやすい利便性の高い地域公共交通

- 区民の区内交通に対する満足度は総じて高いものの、「誰一人取り残さない」というSDGsの共通理念に則り、誰もが行きたい場所に安全・安心して行けるよう、公共交通の利便性を高め、区民一人ひとりの移動を確保し、今後は一層充実していく必要がある。
- ポストコロナ時代における生活様式の変容や今後進展する高齢化に伴う免許返納問題等の社会状況を踏まえ、区全域の地域交通のあり方を区民や交通事業者等と共に検討する。

基本方針②

地域課題を解決し地域を活性化する地域公共交通

- 都市活動の基盤となる公共交通は、観光・医療福祉・環境・教育等他分野への波及効果があり、道路空間の再配分など、まちづくりと一体的な検討が必要である。また、近年外出しない若者や移動に困難を抱える高齢者・障害者等の外出機会の創出、来街者の回遊性向上等、ハード・ソフト両面から地域の課題解決を図っていく必要がある。
- Society5.0を目指したデジタル化の潮流や自動運転社会の実現を見据え、新たなモビリティやMaaSなどの新技術とまちづくりの連携に努めた上で、区民の行動変容を促していくことを検討する。

基本方針③

地域で育み次世代につなぐ環境にやさしい地域公共交通

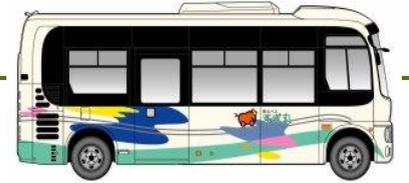
- 日頃の移動に徒歩や自転車を使う区民の割合は非常に高く、環境負荷の小さい移動手段の導入に対する関心も高い。今後は、次世代が明るい未来を展望できるよう脱炭素社会実現に向けた取り組みとともに、区民一人ひとりが豊かな地域生活を送れるよう、新たな移動サービスを育成し公共交通の利用を促す取組を検討する。

施策の方向性

施策の方向性①

既存の公共交通・地域交通の見直し

- これまで南北バス「すぎ丸」の運行など交通改善に向け取り組んできたが、将来にわたって公共交通を維持・確保していくために、タクシーや福祉運送等も含め全ての区内輸送手段の役割分担を明確にした上で、地域の実態や需要に即した公共交通全体の最適化を図っていく。
- とりわけ、区の事業である「すぎ丸」の運行については、事業採算性のみならず、クロスセクター効果なども考慮し維持・改善を検討していく。



施策の方向性②

MaaS等の新技術を活用した移動サービスの構築

- 鉄道・バス等の移動手段と商店街等の移動目的とのサービス連携が可能なプラットフォーム（杉並版MaaS）構築に資するよう、公民連携のもと交通分野のDXを推進し、区民の移動総量を上げていく仕組みづくりに努めていく。
- 国、東京都、近隣自治体や関係団体等との連携を視野に、駅・バス停等交通結節点や病院等生活拠点へのアクセス向上を図るため、デマンド交通やグリーンスローモビリティ等新モビリティの導入の可能性を実証実験を通じて検討していく。



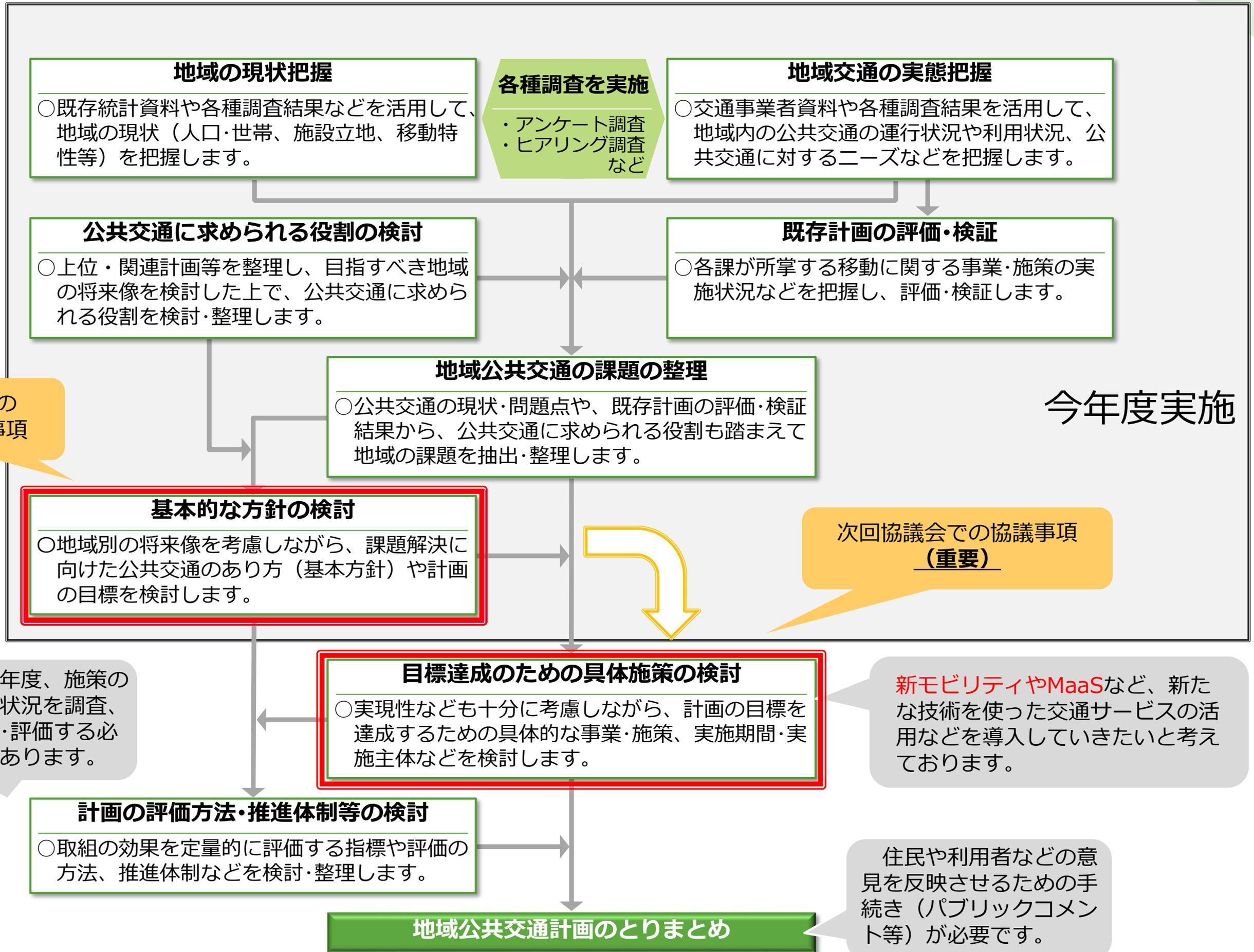
施策の方向性③

環境負荷の小さいエコな移動の推進

- カーボンニュートラル実現のため、自家用車の過剰な利用から適度な利用と公共交通の利用を促進するモビリティマネジメントの考え方に基づき、徒歩やシェアサイクル等自転車の利用促進などと一体的に、多様でエコな地域交通をデザインする。



3. 計画策定のスケジュール



4. 計画策定から事業実施に向けたスケジュール

		R3年度 (2021)				R4年度 (2022)				地域公共交通計画 (R5~R12)								
		1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1 R5	2 R6	3 R7	4 R8	5 R9	6 R10	7 R11	8 R12	9~ R13~
計画策定		計画策定準備				具体的施策の検討				中間見直し								
		現況調査 (区民アンケート調査等)				計画案の作成				総合計画・都市計画マスタープラン目標年次								
事業化		基本方針検討				計画案の修正				計画見直し								
		R5.2 計画策定				短期施策				中期施策								
実証実験		3/25(金) 3/26(土) 荻外荘公園周辺における次世代モビリティ試乗会 (グリスロ・WHILL)				夏~秋 グリスロの実証実験 デマンド交通の検討				グリスロ実証実験								
本格導入						地方創生交付金・デジタル田園都市国家構想交付金など補助メニューを検討				グリスロ導入 目標								
組織体制										計画に基づき7地域ごとに移動に関する事業を推進								
庁内	作業部会 (ICT活用検討部会)	7月から月1回程度実施				具体的な仕組み検討												
	策定検討会	7月・1月に2回実施				2、3回実施 (計画策定で廃止)												
庁外	活性化協議会	3/1(火) 第1回協議会				7/13(水)・11月・2月 第2~4回協議会				定期的に開催 (新モビリティサービス事業も併せて検討)								